



## 解説

# シニアとひとくくりにはせず 個人差や特性を大切にすべき

働くシニアが増えている。シニアがいきいきと働くために、これからどんなことが必要になるのか、東京都が主催する「東京セカンドキャリア塾」の講師も務めるシニアライフアドバイザーの松本すみ子さんに話を聞いた。

### シニアの就労にみる 理想と現実のギャップ

「人生100年時代」と言われる今、定年退職後の生き方が非常に重要になっています。平均寿命が延び、定年後の時間も長くなり、かつてのように「あとは余生」とはいきません。現在、70歳前後になっている団塊の世代は、自分たちのことを年寄りなどとは思っておらず、まだまだ社会で働きたいと思っている人が多い。少し下の60代であればなおさらで、自分たちはまだ現役だと思っています。そして人手不足もあり、社会としてもシニア世代に働いてもらう必要があり、政府もシニアの就労を増やしたいと考えています。実

際、65〜69歳では男性の半数以上が、女性も3分の1以上が働いています。

とはいえ、シニアが働きたいと思っている仕事と、社会がシニアに働いてもらいたいと思っている仕事にはズレがあります。そこそこ名の通った会社でそれなりの役職だった人であれば、自分のスキルや成功体験を活かせる仕事に就きたいと思うのは当然です。自分がこれまで築き上げてきたものを活かした仕事をしたいというわけですね。さらにいえば、お金も欲しい、やりがいも欲しい、できれば役職も欲しい、というのが本音ではないでしょうか。

しかし、現実にはハローワークの求人はコンビニエンスストアな

どの店員や駐輪場の係員、ビルメンテナンスなどの仕事の求人がほとんど。シニア世代は、理想と現実にギャップがあることを認識・理解して職場を探す必要があります。

### シニアの経験・スキルを 活かすための方針を明確に

企業側でも60歳定年後の65歳までの再雇用などを行い、働く場の提供はしていますが、必ずしもうまくいっているとは限りません。「高齢者雇用安定法」が制度化されたことで、否応なく対応しているという企業が多いように見えます。再雇用者個々のスキルや経験を見極め、自社でどのように活躍できるかをきちんと考えて配置し

ている企業がどれだけあるのか疑問です。

再雇用の場合、給料も下がり、昔の部下が上司になり、あまり仕事も与えられず、なんとなく会社に出勤するだけ……、というケースも散見されます。そうした人は、「こんな飼育殺し状態はいやだ」と辞めてしまい、フリーランスや起業なども考えるようになります。

今のシニア世代は、第二次世界大戦後の日本の経済成長を企業戦士として支えた層です。特に男性は、会社中心の生活を送った人が多く、長年仕事をしてきたという自負から、仕事へのプライドは高く、そこに生きがいややりがいを求めます。仕事に就ければ何でも良いというわけではないのです。